

【令和4年度 埼玉県児童虐待防止対策協議会】知事あいさつ

本日はお忙しい中、令和4年度埼玉県児童虐待防止対策協議会に御出席いただき、誠にありがとうございます。虐待から子供たちを守るという志の下、県医師会の金井(かない)忠男(ただお)会長をはじめ、関係団体の皆様には御協力を賜り、本協議会を開催することができました。心より感謝申し上げます。

児童虐待の凄惨なニュースが、大変残念なことに全国的に後を絶ちません。本県本庄市におきましても、昨年1月に、5歳の男の子が母親を含む同居人3名から度重なる暴行を受けた末、亡くなるという大変痛ましい事件が発生いたしました。このような事件の知らせに触れるたび、未来ある子供たちをなんとかして虐待から守らなければならないという決意を強くせずにはいられません。

本県における令和3年度の児童虐待相談対応件数は、17,606件と過去最高となり、依然として増加傾向が続いております。これは、虐待の発見と通告を促す啓発活動を地道に進めてきたことが理由の一つととらえており、まずは虐待が潜在化しないようにすることが重要と考えています。この数年、新型コロナウイルス感染症のまん延と長期化は、人と人とのつながりを弱め、孤独・孤立を深刻化させています。そのような中で、生命や身体の安全を脅かされている子供たちを見つけ出し、適切な支援につなげるためには、今まで以上に関係者が緊密に連携し、虐待の未然防止・早期発見・早期対応に取り組むことが重要であります。

本日は、虐待被害の当事者であり、現在は児童養護施設を退所した若者の自立支援などに関わっておられる、ブローハン聡(さとし)さんをスピーカーとしてお迎えいたしました。私も、以前、ブローハンさんが活動する当事者の居場所にお邪魔して、利用者のお話をお伺いしたことがあります。ブローハンさんには、当事者としての御経験から、関係団体や機関に期待することにつきお話しいただき、子供たちの声にならないSOSに、我々大人がいかにして気付き、適切な初動対応につなげるのか、考えていければと思います。未来ある子供たちのかけがえのない命を児童虐待から守り、その安全を確保していくため、協議会の皆様とともに、全力で取り組んでまいりたいと思います。

今後とも皆様には何とぞ御協力をいただきますようお願い申し上げます、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。